

夏休後の小供

其 一

野 口 幽 香

永いお休は年に三度ありますが、お正月のお休は學年の終りに近く、子供も慣れて居る時ですのに、休後は大分困るのがありますして、暫くは回復に骨を折ります。四月の休は大きな子供は出てしまつたあとで小さな許りになりますから、此時も一寸あと戻り少なからず骨が折れるのであります。所が夏休、私の處では先づ正味六十五六日は休みますので、私共でも幼稚園を忘れた様になります。子供には嘸永い感じがしましうが、一方で此永い幾日は、子供の身體の上にも亦心のうえにも、變化を認める程、發達するものと見えまして、夏休後は存外困難の少ないのが、毎年の例になつて居ります。處か本年、多年の例にはづれまして、子供が妙になりましたして、異口同音不思議だ

と申ました。それは子供が一向活動しませす（皆様はあなたの所はいつだつて不活潑じやないかといはれるでしようが）注意が亂れて遊戯をさせて見ますと、先導者は重くて／＼子供が少しも自由に動きません、さればとて別段泣く子供が多いといふわけでもなく、全體がグタグタして刺撃に感じないと申した風。其原因を皆で考へました、どうしても當年の氣候に關係して居るとより思はれませぬ、今年のように休後いつ迄も暑い年は餘りありません、今少し涼風の吹くのを楽しんで居ります、併し氣候計り待つても居りませぬ、これをなほす方法は、私共はいつも共同遊戯をさせます、毎日の様に「マーチ」やら「スキップ」やら又は種々の歌の伴なふ動作など、時間は短くとも熱心にといつた風にさせます、今日は始まつてから十一日めになります、稍回復したと認めて參りました、尙夏休前後の子供の體重の増減を一寸左に記しましょう。

体の前後に計る事を得た子供五十四名の内
 體重の増加 三十九名 最大一キロ、〇五〇
 したるもの 最少 〇五〇 平均 二四七

體重の減じ 十五名 最大 八〇〇
 たる者 最小 五〇〇 平均 三三七

其二 小向きみ

夏休後の幼児に就きまして、感じた事を、一つ
 二つ申述べて見たいと存じますが、勤怠と云ふ事
 は能く人の常に云ふ事でございまして、勤と云ふ
 方は、中々油斷の出来ませぬことで、やゝともす
 ると、怠と云ふ方に傾き易いやうでございませ
 是は大人の上にもあることで、餘程注意致しませ
 んと、怠の癖はつき易いものでございませ、大人
 の事は暫く措きまして、幼児の上について、是を

考へて見ますのに、人間將來に於て勤怠の何れに
 か定まるは、蓋此幼稚園時代の躰方如何による事
 と存じます、尤も好んで大切の子供を怠り者にす
 る人もございませませんが、愛と云ふ事の爲には、不
 知不識の間に、子供をわくるくする事がなくとも限
 りません、今夏休後の子供に就て、調べて見ます
 のに、家庭に於て非常に大切にされて居る幼児が
 種々の手段を以て漸く幼稚園に馴れ、夏休前など
 は一日もお休をした事なく、朝も食事がすむや否
 や早く々と女中を、せきたてると云ふ風でござ
 いまして、さて七月下旬から八月一ぱいと云ふ永
 いお休がまわりました、夫もまたゝ中にすぎ、
 久し振で、幼稚園がはじまりました、そしてあの
 位幼稚園が、好きだつた子供は、一向顔を見せま
 せん、必らず病氣でもして居る事と想像して居り
 ましたが、一週間を経ても、病氣届も出ません、
 だん／＼調べましたら、病氣でも何でもなく、只
 家庭にて、我儘を云つて遊んで居たいと云ふ風に

變つてしまつたと云ふ事が、分りました、之を知つた私共は、實にがっかり致しました。

さて此原因は、色々ある事でございませうが、夏休は、幼児の身の上に取つては、暫く勤務のお休でございますから、いくらか心もゆるむでございませう、其上避暑とか海水浴とか云ふ騒で或は小田原に、熱海に、箱根に、出かけます、目に見るものは、珍らしいものばかりで、廣々とした海上に、蒸汽船が煙を、吐て走つたり、大きな親船は白帆を孕ませて、往來したり、釣する海士の小船は木の葉の如く、目に見るもの耳に聞くもの、皆愉快で満たされて居ります、此の如き有様で、永き夏の日も、なほ短いと云ふ風で暮します。

さあ此時が、子供の取扱に注意を要することです又非常に、むづかしいのでございます、元より保養と云ふことを目的とする所でございますから、平生規律正しく、躰をして居らしつた方も、幾分か手綱をおゆるめになります、子供の方では何と

なく、それが愉快になる、夫ばかりならよいけれども、避所地等にてはお客様等餘り入つしやいませんから、お母様もお暇である、竹やも常やも、比較のお臺所が、ひまである、自然母様が付切りで、お相手をして下さる、女中もお側を離れないで、遊んで呉れます、お忙がしい時何を云つてもお返事して下さらなかつた母様も、此時にはよくお返事をして下さいます、女中はどんな我儘でも、皆通させて呉れます、此所へお祖母様でも入つしやらうものなら、實に大變な事で、此時は子供の極樂世界でございませう。

いかに慈愛に富んだ保姆、如何に設備の行届いた幼稚園であつても、とても此家庭の力には叶ひません、従て此力は、幼児に善用する時は、其効果は著しく見ゆるもので、惡く用ゐても亦其結果はありくと顯はれます。

尤もぐわんせなき子供に、規律だの勤怠だの云ふことを求めるのは、不自然なることでございま

すが其周圍をとりまく大人が、常に其心持で、子供を取扱つて行つたならば、所謂いはず語らずの内に子供に、うつるものだらうと存じます。

いかに避暑地が面白くても、幼稚園が始まる頃には歸らなければならぬもの、いかに家庭が面白くても、幼稚園に行くべき時は、必らず行くべきもの、と云ふ風に仕向けていたいたら、二三日もたてば、又幼稚園が面白くなつて喜んで来る様になるものでございます。

前申上げました子供は、早速保護者を呼出して忠告致しました、幸に私の申した言を容れて、其翌日車に載せて、祖母様同道で、参りました、不機嫌な顔をして、なか／＼お室にはいりません、其中どうかして、大勢なお友達の中に混つて、遊び出しました、祖母様が歸つても、さがしも致しません、保姆も一生懸命に懇めてやりまして、明日も亦何々をして遊びませうね、と云ふ風に約束をして別れました、其翌朝は早く登園して、樂

しさうに遊ぶ様になりました、其後はお休み致した事がなくて、私共も先一安心致しました。

三つ子の魂百迄とか申しますが、實に其通りで、幼稚園時代が最大切な時で、時に怠ると云ふ習慣が付きますと、小學校中學校女學校と進むに従てます／＼甚だしくなつて参ります、モ一此迄來るとなか／＼矯正するのが困難でございます。

幼稚園に御關係の、お有になる方は、かういふ御經驗が定めしお有になる事と存じます。

會 告

當十月常集會左記の通り開催致し候御繰合せ御出席願上候

一、日時 十月十四日(第二土曜日)午後一時三十分

一、會場 東京女子高等師範學校附屬幼稚園
一、講演 齋藤斐章君